バングラデシュ紀行

山本　義雄

今年の３月上旬から３０日余りにわたり、文科省の海外学術調査でバングラデシュの各地を回りましたのでその印象を紹介します。

バングラデシュは日本の 4 割弱の国土に１億４千万人が生活しており、人口密度が世界一で、最貧国のひとつといわれている。この国はインドの西ベンガル州と呼ばれていた地方を中心に１９７１年に独立を果たした若い国であるが、紀元前から、インド領の中でも、宗教、政治、経済の重要な地域として栄えてきた長い歴史を有している。

バングラデシュの自然

この国は、ヒマラヤから流れベンガル湾に堆積したメグナ河のデルタが国土の大部分を占めているため、ほとんどは平地で最も海抜の高いところでも 1,000m位である。気候は熱帯モンスーン気候に属するため、雨季と乾季に大別されるが、その合間に四季がある。3-４月は一応春ということになっているが、日中の気温は３０度を超えることもたびたびである。朝夕は涼しく、各種の花が咲き始めていたのでとても快適でした。

バングラデシュの農業

バングラデシュの農業では、なんと言っても稲作が主体で、品種もフィリッピンの国際稲研究所で開発された品種が中心で、平野部では３毛作が普通である。雨季に河川の氾濫がもたらす豊かな栄養分に恵まれているため、米のほかにも、各種の野菜やタバコ、ジュートなどが栽培されている。また、インドのアッサム地方と国境を接する Sylhet 県ではお茶の栽培が盛んで、アッサム紅茶、ダージリン紅茶として輸出されるため、豊かな農家が多く、Tea Garden のオーナーは、ロンドンに生活の場を移し、マネージャが管理している。オーナーのバンガローでお茶をご馳走になったが、その屋敷は豪壮で、広大な庭園に囲まれており、まさに英国風の優雅な生活を楽しんでいるようだ。

バングラデシュの交通事情

バングラデシュでは、リキシャと呼ばれる人力車が庶民の足です。首都のダッカはもちろん、地方の小都市や農村など、どこへ行ってもリキシャはある。大都市では、リキシャの数は自動車の１０倍以上はあり、交通規則はほとんどないも同然なので、自動車やバスはリキシャに囲まれて身動きが取れない状態が続いて交通渋滞の主要因になっている。リキシャの料金は、２ｋm位までは 5tk(８円位)と安いので、ほんの近くまででもリキシャを利用している。車は、バングラデ シュ産の天然ガス(CNG)がガソリンの十分の一位と安い

リキシャ

ので、ＣＮＧ車が多いのですが、ガソリンスタンドに比べて、ガススタンドの数が少ないため、車の行列ができて給油まで３０分程度はかかる。ミャンマとインド国境を結ぶアジアハイウエーA-1 がこの国の大動脈である。Sirajganj 県のジャムナ河には片側 2 車線の橋が 5km も続き、世界銀行などの援助でできたが、観光名所になっており、観光客とリキシャが多くて車はあまりスピードが出せない状態である。

バングラデシュの食べ物

バングラデシュの食事は、朝食を除くと、ほとんどカレーである。チキンカレー、マトンカレー、ビーフカレー、フィシュカレーが昼と夜に順番に出てくる。比較的カレーが好きな私でもさすがに飽きてきしまった。朝食は、チャパテーという薄焼きのパンとカレー味の野菜煮込み、唐辛子入りのオムレツと紅茶です。もちろん、一泊 100USD 以上の高級ホテルでは中華料理や西洋料理のメニューもあるようである。衛生上の問題からあまり食べませんでしたが、街中では、大型の揚げ餃子風、揚げドーナツなどもあり、紅茶と一緒に食べている姿がどこでも見られる。果物は安くておいしいものが多いが、私の滞在中はパパイアがほとんどでしたが、マンゴーやジャックフルーツ(バングラデシュの国果)なども出始めていた。ジャックフルーツは５kg 位のが７０円と安く、１０人で食べてもあまります。この国では、宗教上の問題からビールやアルコールが手に入らないので、夕食前のビールがないのが残念である。

チャパテー

バングラデシュの治安

バングラデシュの治安は、他のアジア諸国に比べても良いほうだと思う、もちろん、スリや置引きは結構あるようだ。ただし、地方によってはかなり治安の悪いところもある。バングラデシュがパキスタンから独立したとき、イスラム教徒以外の少数民族(ほとんどはモンゴロイド)が所有する土地や財産を国が没収したようだ。そのため、今でも土地の返還交渉や、自治権を要求する反政府運動などがある。ミャンマ国境の Bandarban 県に調査に出かけたとき、検問所では、車の中や書類のチェックが非常に厳密だった。丁度通りかかった、バナナを満載したトラックは、先の鋭い鉄棒を持った治安警察が、バナナを上から突き刺して、バナナの下に人や不審なものがないかを確認していた。私たちの調査中は、ライフルを持った治安警察が常に３人付き添っており、政府は反政府側の少数民族に相当に気を使っているようだった。バングラデシュ農業大学のあるマイメンシンから 30km ほど離れたところに、モドウプール森林公園があるが、夜間は車での通行でも隊列を作って、警察が先導してくれる。このあたりに住むガロと呼ばれる少数民族が車を襲うことがあるらしい。

（広島大学マスターズ通信第 12 号より）